

日本体育・スポーツ政策学会

第 28 号

会 報

平成 31 年 3 月 18 日 発行

「東京五輪の成功とその後に期待して」

笠原 一也（日本体育・スポーツ政策学会会長）

会報 28 号の発刊に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

平成 30 年度、第 28 回日本体育・スポーツ政策学会大会は、桐蔭横浜大学において盛会裏に開催されましたことを関係者として心から喜んでいる次第であります。会場となりました横浜桐蔭大学に感謝申し上げたいと思います。

今年度の第 29 回大会は、日本体育大学で開催されることになっており、充実した展開になることを期待しているところであります。

本学会は、1980 年代にスポーツ行政を研究するグループとして活動し始めたと記憶しておりますが、正式には 1991 年に設立し、体育・スポーツ政策に関する科学的並びに会員の連絡協同を促進するとともに、体育・スポーツ関連機関、諸団体との協調を図り、体育・スポーツ政策の研究と実践に寄与することを目的として活動してきている学会であります。

おもな活動は、毎年、日本体育・スポーツ政策学会大会を開催しており、内容は、基調講演やシンポジウム、研究発表などですが、スポーツ庁の誕生や東京オリンピック・パラリンピックについてなど、時宜に合わせたテーマを取り上げたりし、会報や研究誌も発行してきております。

近年、我が国は、2011 年「スポーツ基本法」の制定、2012 年「スポーツ基本計画」の発表、2013 年「オリンピック東京開催」の決定、2015 年「スポーツ庁」の発足、2017 年「第 2 期スポーツ基本計画」の発表などより、積極的な体育・スポーツ政策が打ち出されてきています。2020 年のオリンピック・パラリンピックに向け、我が国の体育・スポーツへの取り組みが大きく変わろうとしていることが伺えます。

また、日本体育協会が日本スポーツ協会に、国民体育大会が国民スポーツ大会に名称変更するなど体育からスポーツへの流れが生まれてきています。

そのような中、スポーツ界では、スポーツをイメージダウンさせるような出来事があまりにも多く発生し、人々の期待を裏切るようなこととなってしまっていることは、体育・

スポーツ関係者の一員として誠に残念でなりません。

東京オリンピック・パラリンピックを成功に導くためにも、その後の我が国の体育・スポーツの充実・発展に貢献するためにも、国の体育・スポーツの方向性を考え、体育・スポーツ政策の研究と実践に取り組んでいる本学会の存在意義、果たす役割は誠に大きいものがあると思われまます。

結びになります。日本体育・スポーツ政策学会がますます充実、発展していくためには、本学会の目的を理解し、会員はもとより多くの研究者が会員となって、活動に積極的に取り組んでいくことが求められ、期待されるところであります。

《大会報告（28 回大会）》

日本体育・スポーツ政策学会 第 28 回大会報告

大会実行委員長 田中暢子（桐蔭横浜大学）

日本体育・スポーツ政策学会第 28 回学会大会は、2018 年 12 月 8 日（土）に桐蔭横浜大学にて開催されました。参加人数総数は、非学会員の学生を含む 280 名でした。

本大会のテーマは、「政策学とメディアの新たな融合への挑戦」としました。これは、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会などの招致決定を機に、我が国における体育・スポーツ政策も様々な側面からの議論が活発化したことが背景にあります。その議論のひとつに産業とスポーツ政策の関わり方があり、特にメディアと政策との在り方については、今一度、前向きに、友好的に、そして批判的に問う機会を創造したいとの思いがありました。

大会は、一般研究発表、シンポジウム、ワークショップはそれぞれ 2 つのセッション、さらには若手座談会で構成しました。

シンポジウム 1 は、田中（桐蔭横浜大学）が座長を務め、太田慎也氏（WOWOW「WHO I AM」チーフプロデューサー）、中野淳氏（日本放送協会アナウンサー）、松田薫二氏（公益財団法

人日本サッカー協会技術部副部長兼グラスルーツ推進グループグループ長）をお招きし、大会と同じテーマを掲げ、エリート主義やスティグマ、障害者スポーツの推進システムについて活発な議論がありました。シンポジウム 2 では、間野先生（早稲田大学）が座長を務められ、岡村信悟氏（横浜 DeNA ベイスターズ社長）と西山雄二氏（横浜市市民局理事スポーツ統括室長）とともに「横浜スポーツタウン構想」の視点から、横浜市が進めるスポーツと関連施策について討論しました。

ワークショップ 1 は、吉田先生（桐蔭横浜大学）の座長のもと、『地域スポーツジャーナル』がもたらす地域スポーツの発展と課題』について、鶴見由加里氏（株式会社スポカラ代表取締役社長）と小池剛氏（長野スポーツマガジン株式会社代表取締役社長）を招き、長野県を事例として議論しました。ワークショップ 2 は、日比野先生（日本体育大学）の座長により「アスリートパスウェイの構築に向けて」をテーマとして、関伸夫氏（スポーツ庁競技スポーツ課課長補佐）、中平稔人氏（福岡県人づくり・県民生活部スポーツ振興課課長）、衣笠泰介氏（独立行政法人日本スポーツ振興センターハイパフォーマンスセンターハイパフォーマンス戦略部開発課主任専門職）とエリートアスリートを生み

出す施策について意見交換がなされました。

また新たな試みとして、「若手研究者スタートアップ座談会～#体育・スポーツ政策の#問題意識を掘り起こせ～」と題し、院生・学部生が「政策学って面白い」と感じて頂ける場を設定することを目的として開催しました。コーディネーターとして笹生先生（東京女子体育大学）、森谷航氏（桐蔭横浜大学大学院）、平塚卓也氏（筑波大学大学院生）、藤岡成美氏（公益財団法人笹川スポーツ財団研究員）が登壇しました。

研究発表数は 12 題と少なかったことは、大会の課題として挙げられます。ですが、学会全体としては、シンポジウム、ワークショップ、若手研究者の座談会のテーマが大変興味深く、本学会の発展に一石を投じたものと自負しております。最後に、学会が盛会に終わりましたのは、学会理事の皆様、そして実行委員会の先生方のお力添えによるものと感謝の意を申し上げます。

若手ランチセッション
「若手研究者スタートアップ座談会
～#体育・スポーツ政策の#
問題意識を掘り起こせ～」

笹生心太（東京女子体育大学）

「本学会の発展を願い、若手研究者がより参加しやすい場を積極的に設定する」という本学会大会主旨に基づき、学部生および大学院生の参加を想定した若手研究者の集いを開催しました。最終的な参加者は、学部生、大学院生、若手研究者併せて 25 名となりました。

本セッションでは、「若手研究者同士で体育・スポーツ政策学を学んだり、研究したりする際の楽しみや苦勞を共有する」ことを目的としました。そこで、まず森谷航氏（桐蔭横浜大学大

学院生）、藤岡成美氏（公益財団法人笹川スポーツ財団研究員）、平塚卓也氏（筑波大学大学院生）の 3 名に登壇していただき、それぞれの立場から、それぞれの体育・スポーツ政策学研究への想いやモチベーションについて話していただきました。

その後、全体で簡単なレクリエーションを行って交流をし、3 名～4 名のグループに分け、グループごとの座談会に移りました。座談会では、ワークシートを用いて作業を行っていただきました。ワークシートには、「①体育・スポーツ政策学を志したきっかけ・問題意識・ハマった瞬間」、「②体育・スポーツ政策学研究の面白さ」、「③体育・スポーツ政策学研究の苦勞」、「④研究の先にある目標」の質問が掲載され、それぞれについて、1 人 1 人発表してもらいました。そして、各グループの座談会終了後、各グループで出た意見を共有しました。

なお、グループ座談会中には、ユニークな意見が出た場合、ハッシュタグ「#体育スポーツ政策」をつけて、twitter で随時つぶやきを投稿してもらいました。スクリーンには「#体育スポーツ政策」のつけられたつぶやきがリアルタイムに表示されるように設定し、他のグループの意見をすぐに共有できるようにしました。

登壇者の森谷氏と平塚氏には、後日、参加者からの意見を集約してもらいました。その中には、「自分自身のことを振り返ってみたり、考えることが多かったので、物事に対して『考える』ことへのいい機会だった。ゲーム方式だったので楽しくできた」、「普段は話すことがない他大学の大学院の方とお話しする貴重な体験ができました。アイスブレイクの方法が多様で参考になりました。卒論についても意見をもらうことができ参考になりました」、「SNS を使って若手らしい全体共有の仕方で良いと思った」といったものから、「前半のアイスブレイクが長く、後

半に十分な話し合いができなかったので、ゲームは1つでよかったのではないかと、「後半にまとめた意見をもとにさらに話し合いができればよかった」といった来年度の課題まで、様々な意見がありました。

参加者からの意見にあったとおり、残念ながら時間が不足しており、最後の意見共有は中途半端なものに終わってしまいました。この点は次年度への反省です。とはいえ、本座談会の主目的である若手研究者の交流という役割は、十分に果たせたのではないかと考えています。参加者のみなさん、ご参加ありがとうございました。

《大会参加報告》

日本体育・スポーツ政策学会 第28回大会に参加して

遠藤華英（早稲田大学スポーツ科学研究科）

日本体育・スポーツ政策学会第28回大会が、平成30年12月8日に横浜桐蔭大学にて開催されました。

一般研究発表では、スポーツ政策全般にわたる12題の口頭発表が行われました。テーマとしては、日本のスポーツ政策の策定状況や評価に関する研究、スポーツ実施率や地域スポーツ、学校運動部活動に関する研究等、多様な研究が見られました。自身の研究分野のみならず、スポーツ政策に関わる最新の研究動向や手法を学ぶ重要な時間となりました。私も発表者として、「途上国における準地域国際大会開催によるレガシー構想」と題した研究を発表させていただきました。本研究では、準地域的な国際競技大会として東南アジアで開催されているSEA Games およびASEAN Para Games に着目し、当該大会開催に伴う各種事業の実践結果をレガ

シーの観点から明らかにすることを目的としました。発表後には、多くの建設的なご質問やご意見を頂戴し、改めて自身の研究のオリジナリティや意義について考える機会となりました。

また、今大会では若手研究者ランチセッションが行われました。スポーツ政策やビジネスに関心を持つ大学生・大学院生の大学の垣根を超えたネットワーキングの場が設けられたことは、今後のスポーツ政策研究の発展に向けた素晴らしい取り組みだと考えます。今大会をきっかけとして、今後も参加者同士の活発な交流が行われることと思います。

学会後半にはワークショップとシンポジウムが開催されました。いずれの回も、各分野において第一線で活躍されている有識者が登壇し、様々な知見や将来的な展望について議論されました。研究のみならず、現場の実践課題について学ぶことで、学術研究が持つ社会的意義や役割について再認識することとなりました。

最後に、今大会を運営するにあたり、準備をしてくださった関係者の方々に、この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

日本体育・スポーツ政策学会 第28回大会参加報告

森谷航（桐蔭横浜大学大学院）

大学院修士課程に進学して8ヶ月が経った2018年12月に、日本体育・スポーツ政策学会が、私が通う桐蔭横浜大学で開催されました。大会実行委員長が研究指導の田中先生でしたので、若手セッションでの登壇や大会運営、様々な研究を間近で見ることができ、“学会”に初めて深く関わらせて頂きました。

なかでも、新たな試みとなる「若手研究者スタートアップ座談会～#体育・スポーツ政策の

「#問題意識を掘り起こせ〜」において、パネリストとして登壇させて頂いたことが印象深い経験となりました。笹生先生(東京女子体育大学)のファシリテーターのもと、パネリストは修士課程の私(桐蔭横浜大学大学院)、博士課程の平塚卓也氏(筑波大学大学院)、社会人の藤岡成美氏(公益財団法人笹川スポーツ財団研究委員)の3名でした。私は、3人のパネリストの中で最も研究者としての経験が浅くありましたが、一方で学部生に近い存在でもありました。そのため参加者の学部生に親しみやすく、研究に興味を持ちやすくなるような立ち回りを意識しました。グループワークでの意見は、ハッシュタグ「#体育スポーツ政策」をつけて twitter で眩

いてもらい、“流ツイ”と呼ばれる手法で画面に流し共有しました。まさに若手らしさ全開です。今回は恥ずかしさからか、特定の参加者のツイートしか見受けられませんでした。今後はより若手が参加しやすい、ワクワクするような工夫を考えたいと思います。私個人としては、「JSC の事業に関わった」「文献と心を通じ合わせる面白さ」「エリート選手の価値と経済効果」等々、皆さんの問題意識や研究にハマったきっかけを聞くことができ、大変興味を持ちました。若手セッションが今後も継続的に開催され、学部生の時から研究者という職業に興味を持ち、研究の面白さに気づけるような機会がより多く設けられていくことを心より願っております。



日本体育・スポーツ政策学会
関西セミナー報告

関西セミナー代表 横山勝彦

日時：2018年4月21日(土) 18時～20時
会場：同志社大学今出川キャンパス
講師：余語真夫(よごまさお)氏
(同志社大学心理学部教授)
演題：「感情的意思決定とスポーツ政策」

最初に余語氏より自己紹介及びご自身のスポーツ経験(剣道・スキーなど)から、感情的意

思決定とスポーツの関わり、さらに今回のテーマの主旨について説明があった。

次に感情心理学における理論的背景の紹介があった。デカルトの「情念論」、スピノザの「エチカ」、また、日本文化においても様々な感情論があったことが紹介され、人の感情と意思決定の関係性は、時代を超えて学問全般における共通関心であったことが確認された。

続いて脳と身体の関係から解明される感情のメカニズムが紹介された。特に、fMRI 画像技術の発展に伴い、脳神経科学は、近年急速に解明が進んでいることが説明され、多くの研究結果が紹介された。中でも身体価値説を後押しする

ソマティック・マーカー仮説の説明は、スポーツ政策に関心を持つ我々にとっても興味深いものであった。

そして、感情心理学の知見から、武道・スポーツの効用に関する考察が述べられた。心身機能の鍛錬、生きている実感の源泉、自己の可能性・限界への挑戦、他者との競争・連携、セルフ・コントロール（自己制御、自制）の滋養といった点が指摘された。

最終的には、これらの効用に基づいたスポーツ政策への提言が述べられた。具体的には、幼少期からの武道・スポーツになじむ環境整備、心身障がい者の武道・スポーツの奨励と環境整備、指導員の育成と雇用、学校教育における体育科目の抜本的見直し、商業スポーツだけでなく日常スポーツの奨励、様々な種目の国際大会の開催、科学技術によるスポーツ革命など、多くは今後の人口減少社会におけるスポーツ・武道のフィールド拡大の好機として捉えることの必要性が述べられた。

余語氏の講演内容は、感情的意思決定の観点から日本のスポーツ政策に対してこれまでにない示唆が与えられたと思われる。特に、人間の感情を『「身体化された価値」の変化』と捉えるアントニオ・ダマシオのソマティック・マーカー仮説からは、今後のスポーツ政策を考える大きなヒントが得られた。

講演後は、参加した大学研究者及び大学院生・大学生、さらに体育・スポーツに関わる実務者との議論が活発に行われた。

第 29 回学会大会案内

第 29 回学会大会は、日本体育大学世田谷キャンパス（東京都・世田谷区）にて 2019 年 11 月 30 日（土）・12 月 1 日（日）に開催される予定です。詳細が決まりましたら、改めてご案内

をお送りさせていただきます。学会員の皆様におかれましては、ぜひご参加下さいますようお願い申し上げます。

《平成 30 年度理事会報告》

＜平成 30 年度・第 1 回理事会＞

日時：平成 30 年 5 月 26 日（土）

場所：筑波大学東京キャンパス

龍谷大学深草学舎（インターネット会議）

【審議事項】

- ・平成 29 年度第 6 回理事会議事録（案）の確認
- ・平成 30 年度学会大会について
- ・出版企画について
- ・アジアスポーツ政策学会について
- ・ICSEMIS について
- ・会長選挙について
- ・日本教育支援協働学会 創立大会シンポジウムについて
- ・日本体育学会の体育・スポーツ政策専門領域設置申請の案内について

【報告事項】

- ・研究誌発行について
- ・会報発行について
- ・セミナーの開催について
- ・その他

＜平成 30 年度・第 2 回理事会＞

日時：平成 30 年 9 月 8 日（土）

場所：筑波大学東京キャンパス

龍谷大学深草学舎（インターネット会議）

【審議事項】

- ・平成 30 年度第 1 回理事会議事録（案）の確認
- ・新入会・退会者の承認について
- ・平成 29 年度決算報告
- ・平成 30 年度学会大会について
- ・アジアスポーツ政策学会について
- ・学会賞及び奨励賞について

・その他

【報告事項】

- ・国際体育・健康・スポーツ科学会議 2020 横浜について
- ・研究誌発行について
- ・会報発行について
- ・セミナーの開催について
- ・その他

<平成 30 年度・第 3 回理事会>

日時：平成 30 年 12 月 2 日（日）

場所：筑波大学東京キャンパス

同志社大学今出川キャンパス

（インターネット会議）

【審議事項】

- ・平成 30 年度第 2 回理事会議事録（案）の確認
- ・平成 30 年度総会について
- ・平成 30 年度学会大会について
- ・学会賞、奨励賞について
- ・会長選挙について
- ・平成 31-32 年度 役員について
- ・新規入会・退会について
- ・その他

【報告事項】

- ・研究誌発行について
- ・会報発行について
- ・セミナーの開催について
- ・その他

<平成 30 年度・第 4 回理事会>

日時：平成 30 年 12 月 8 日（土）

場所：桐蔭横浜大学中央棟

【審議事項】

- ・2018 年度第 3 回理事会議事録（案）の確認
- ・2019～2020 年度 会長選挙について
- ・2018 年度総会について
 - ・2018 年度総会議事次第（案）

・2017 年度事業報告について（案）

・2017 年度収支決算報告について（案）

・2019 年度事業計画について（案）

・2019 年度収支予算について（案）

・2019 年度～2020 年度会長選挙について（案）

・2019 年度～2020 年度学会役員について（案）

・2018 年度事業進捗報告（案）

・学会賞、奨励賞について

・学会会員数について

・その他

【報告事項】

・研究誌発行について

・会報発行について

・セミナーの開催について

・その他

《学会誌の原稿募集について》

学会誌「体育・スポーツ政策研究」の原稿を募集しております。投稿規定をご確認の上、下記編集委員会事務局メールアドレスへ、word ファイル形式の原稿をメール添付にてご送付ください。

神戸親和女子大学 田中聡研究室

「体育・スポーツ政策研究」編集委員会事務局

stanaka@kobe-shinwa.ac.jp

〒651-1111 神戸市北区鈴蘭台北町 7 丁目 13-1)

《平成 30 年度新入会員》

竹口久美子（大阪市立大学大学院創造都市研究科都市公共政策分野）

岡村誠（立命館大学大学院）

遠藤華英（早稲田大学スポーツ科学研究科）

（敬称略、所属等はいずれも当時）

《会員数》

平成 31 年 2 月 27 日現在の会員総数は、199 名です。入会を希望する方がございましたら、

入会申し込み案内をお送りいたしますので、事務局までご連絡ください。

口座名：日本体育・スポーツ政策学会事務局
郵便口座 No. : 00130-4-561426

《事務局便り》

◇住所変更などはお早めに事務局へ
ご異動等によるご住所・所属・連絡先等の変更がある方は、FAX 等にて至急事務局までご連絡ください。

◇年度会費お支払いのお願い
平成 30 年度会費、前年度までの未納会費のお振込みをお願いいたします。

◇学会誌のバックナンバーについて
学会誌「体育・スポーツ政策研究」のバックナンバーを 1 部 2 千円にて配布しております。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

◇学会ホームページについて
下記 URL でホームページが開設されています。

<http://www.jspes.org/index.html>

日本体育・スポーツ政策学会 会報第 28 号
発行日：平成 31 年 3 月 18 日
発行人：日本体育・スポーツ政策学会
会長 笠原一也
編集：理事会広報担当 松畑尚子
事務局：〒184-8501
東京都小金井市貫井北町 4-1-1
東京学芸大学芸術スポーツ科学系
松田研究室内
Tel&Fax 042-329-7643
Email sportseisaku@gmail.com